

た。肺癌ではなく急性肺炎であった。

自分がタバコを吸っているときには、タバコの害になることには耳を貸さず、タバコには害がないという情報ばかりを集めようと、心掛けていた。例えば、著名な病理学者である方でも吸っているとか、ヘビースモーカーであった誰々氏は90才を超えても健在であるとかいった類である。煙突のようにタバコを吸うことを、英語でも同じように、**He smokes like a chimney.**というらしい。若い頃、こんなふうにはタバコを吸っていた人でも結構体の丈夫な人は沢山おられる。だから自分も恐らく大丈夫だろうと自分勝手な解釈をして正当化してしまう。そういったことを明確に説明できる証拠の一つとして、次のような科学新聞の記事の切り抜きを大切に保管していたことをご紹介します。見出しが「タバコの煙の中にボケ防止成分がある」という記事である。この記事を読んだとき、私の喫煙に批判的な人に見せてタバコも悪いことばかりではないという、言い分けの材料にしたことがあった。私の家内も批判的な人の一人であった。しかし、家内の言うには、タバコを吸う人は、長生きをしてボケが起こる前に肺癌で死んでしまうから、統計的に少なく感ずるだけだといって、全然取り合ってはくれなかった。その後、この研究はどうなったのであろうか。もう、5年以上にもなるが、タバコの煙がアルツハイマー病の特効薬になったというニュースは聞いていない。

2. 手術後の私のタバコ感

タバコの害として、体の急性障害には、心拍増加、血管収縮等のような生理学的反応がある。一方慢性障害として、肺癌、呼吸器疾患等がある。私も、今度の急性心筋梗塞を患い、何箇所かの冠動脈の狭窄部分のある造影X線写真を自分の目で見て、とてもタバコなど吸う勇氣は出なくなったことは確かである。あんなに細くなった血管が、タバコを吸ったために血管収縮を起こしたら、もう完全にアウトである。また、10時間余もかけて手術を担当して下さった心臓血管外科医や看護婦さんはじめ私の手術のためにかかわって下さった多くの医療スタッフの方々のことを思うと、もう二度と同じ事を繰り返してはならないと心に誓ったところである。

それに、手術後の胸の痛さは忘れることができない。咳やくしゃみが出そうになると、胸を自分の両腕でしっかりと抱きしめて、恐る恐るしなければならなかった。くしゃみなどは、胸を抱きしめるひまもなく突然にくるのでその時

の胸の痛さは口では説明することができない。これはタバコを吸ったための罰があたったのだと自分に言い聞かせてこの痛さについては諦めるしかなかった。

かつて、加藤延夫名古屋大学総長が中日新聞夕刊“紙つぶて”にタバコについて書かれていたことを思い出す。そこには「喫煙する人はタバコの煙を胸一杯に吸って吐きだすべきである」と述べておられた。要するに、ニコチンやその他の有害物質を喫煙者の肺に十分吸収させ、タバコの煙から有害物質をできるだけ除去した上で環境中に吐き出すようにするため、という理由である。なるほど、人に迷惑をかけてはいけない、タバコの煙をまき散らすことの責任を喫煙者は負って当たり前のことであると、苦笑しながら読んだものである。手術後の今、この文章を読んだとしたらもっと素直に共感できたことと思う。

今では、新幹線に乗るとき禁煙車を選んで乗るようになった。手術前は友人と新幹線に乗るとき、友人が禁煙車に乗るため、わざわざ遠くの1号車や2号車へ行くのにしぶしぶついて行ったものであった。東京へ行くときでも京都へ行くときでも新幹線に乗るときには、私は自由席に乗ることが多い。少し早めに行って前の方に並べば、大抵は座席がとれるからである。指定席をとる煩わしさを考えると、よほど並んで待っている方がよい。しかも、空いていれば自分の好きな座席を選ぶことができるからである。自由席のある禁煙車車両は1号車と2号車である。タバコを吸わなくなってから、禁煙車に乗るためにどうしてこんなに遠くまで歩かされるのかと不満が強かったが、最近では5号車も禁煙車になったので不満は多少解消した。しかし5号車内でも、4号車の近くや、6号車の近くに席をとったとき、通路のドアが開くたびにタバコの匂いが襲ってくるのにはたまらない。できるだけ5号車の真ん中辺りの空席を探すようにしている。全くタバコを吸わなくなった現在の私の心境は、喫煙車を新幹線車両の両端である1号車、2号車と15号車、16号車にして、残りの真ん中の車両はすべて禁煙車にすべきだなんて、また勝手気ままな考えに変ってきているこの頃である。

(平成8年8月8日記)

(名古屋大学医療技術短期大学部教授・診療放射線技術学科)

タバコのボケ防止成分
煙中に

岐阜薬科大の林恭三・教授らは、タバコの煙の中に老人性痴呆症の進行を遅らせる成分が含まれていることを突き止めた。喫煙者に痴呆症患者が少ないことに注目、その因果関係を追求したところ、アルツハイマー病の抑制にも効果があるといわれているNGF（神経成長因子）が煙の中に含まれていることがわかったという。（日刊工業4日）

科学新聞（平成3年7月12日、第2369号）の記事